

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 09年11月 ～円高急進後も増産計画を維持

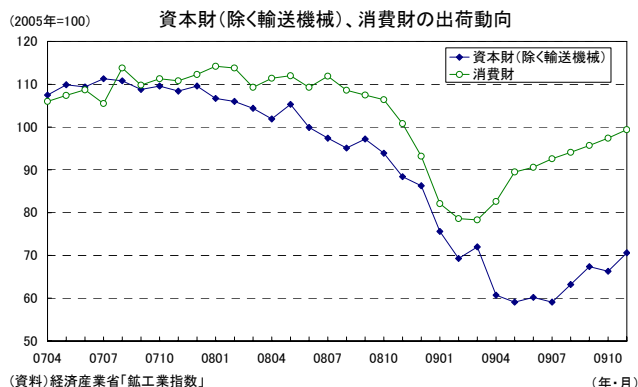
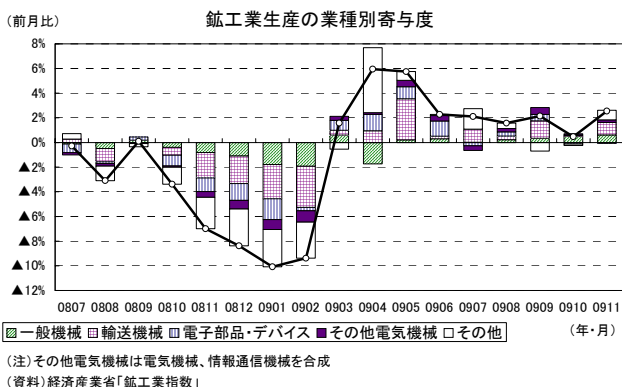
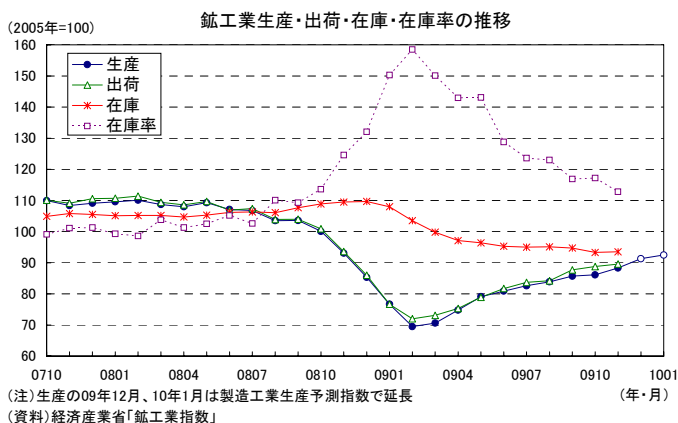
経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 9ヵ月連続の上昇

経済産業省が12月28日に公表した鉱工業指数によると、11月の鉱工業生産指数は前月比2.6%と9ヵ月連続で上昇し、ほぼ事前の市場予想（ロイター集計：前月比2.4%、当社予想は同2.5%）通りの結果となった。出荷指数は前月比0.9%と9ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比0.2%と3ヵ月ぶりの上昇となった。

11月の生産を業種別に見ると、設備投資の下げ止まりを反映し、一般機械が前月比6.4%の高い伸びとなったほか、好調な輸出を反映し輸送機械（前月比5.9%）、鉄鋼（前月比5.4%）も高い伸びとなった。一方、在庫調整の進展から高い伸びが続いていた電子部品・デバイスは前月比▲0.6%と2ヵ月連続で低下した。速報段階で公表される16業種中、13業種が前月比で上昇、3業種が低下となった。

なお、情報通信機械、電子部品・デバイス、輸送機械、化学（除く医薬品）の4業種は今回の回復局面で初めて前年比で上昇に転じた。



財別の出荷動向を見ると、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は7-9月期に前期比5.3%と8四半期ぶりの増加となった後、10月が前月比▲1.6%、11月が同6.5%となった。

10、11月の平均は7-9月期よりも8.3%高い水準にある。7-9月期のGDP2次速報では、設備投資が1次速報の前期比1.6%から同▲2.8%へと大幅に下方修正され6四半期連続の減少となったが、供給側の統計は設備投資の下げ止まりを示唆するものとなっている。

消費財出荷指数は7-9月期の前期比7.4%の後、10月が前月比1.8%、11月が同2.1%となった。非耐久消費財は弱含んでいる（10月：前月比▲0.8%、11月：同▲0.3%）が、好調な自動車販売を反映し、耐久消費財が7-9月期の前期比15.1%の後、10月が前月比2.8%、11月が同4.7%と高い伸びを維持している。

2. 円高急進後も増産計画を維持

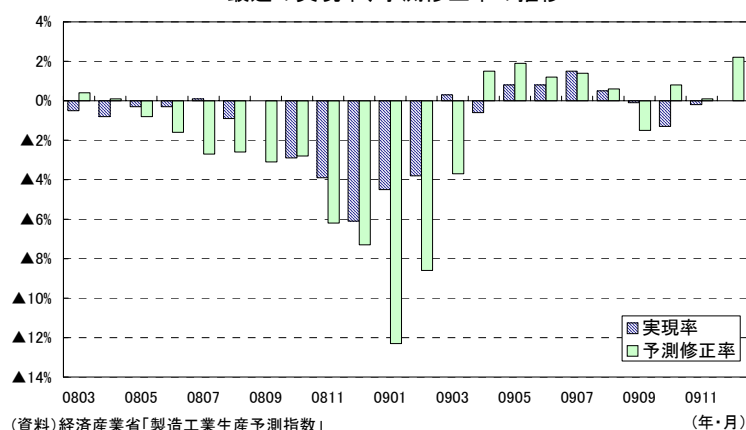
製造工業生産予測指数は、09年12月が前月比3.4%、10年1月が同1.3%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（11月）、予測修正率（12月）はそれぞれ▲0.2%、2.2%となった。今回の予測調査は円高急進後の12/10時点で報告されているが、12月の予測指数は大幅に上方修正され、1月も増産を継続する計画となっている。

輸出が引き続き堅調に推移していることを背景に、企業は比較的強気な生産計画を維持している。

予測指数を業種別に見ると、設備投資の下げ止まりを反映し持ち直しの動きが続いている一般機械が高い伸びとなっている（12月：前月比2.3%、1月：同7.8%）一方、2ヵ月連続で低下した電子部品・デバイスが12月が前月比3.4%、1月が同▲7.5%と一進一退の動きとなっている。

11月の生産指数を12月の予測指数で先延ばしすると、10-12月期の生産指数は前期比5.3%の上昇となる。4-6月期の前期比8.3%、7-9月期の同7.4%からは伸びが低下するものの、3四半期連続で高い伸びとなることが見込まれ、予測指数の動きから判断すれば年明け以降も堅調な推移が予想される。

最近の実現率、予測修正率の推移



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。